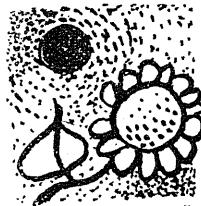


日光と幼児



平井信義

(一)

う無謀の結果ではないでしょうか。子供がもし「日射病」にかかるとしたら、それは親の責任ではないでしょうか。

「結核の子には日光は害になるだろう」という方があります。それも結核菌という奴が悪いので、お日様を責めるのは酷いことだと私は思います。

ずい分屁理屈を並べましたが、お日様がこの世になかつたらどうでしょう。人類動植物は総て暗黒の中に一挙に死滅です。こうした屁理屈は兎も角、この有離いお日様を、平生ずい分無駄にして、その結果健康を損ねている人が多いので、むしろお日様の害を説く事が悪い結果を生みはしないかと心配です。しかし、私は勇気を振り起してあら探しをしてみましょう。

という下心はないのです。先生方が日焼けを心配なさるのも美人でいたいという欲張りの気持からでしょう。

「日射病」はどうか、と問い合わせる方があるかも知れませんが、これもお日様のせいではなさそうです。長いこと炎天下にいるとい

う。私も去年の夏、日焼で全身赤くなり皮がむけて閉口いたしましたが、これは切角海に来たのだから焼いてやろうという私の欲張り心から出たむきいであります、お日様は私を困らせてやろうなど

(二)

先ず「結核の子供」についてありますが、これは日に当らない方がよろしい。病状を悪化させる恐れがあるからであります。以前は結核は日に当るとよいというので、さかんに日に当つたもので、

そのために喀血して死んだ友人を知っています。

又、ツベルクリン反応が自然陽転した子供も、日光に当る時間を少々する必要があります。自然陽転とは、本当の結核菌の感染を受けて、その結果ツベルクリン液を入れたあとが赤くはれることで、その直經が一〇ミリを超えた場合をいうのであります。今、私は「本当の結核菌が入つて」と申しましたが、では「うその結核菌」があるのでしようか。「うそ」というのは少しおかしいが、それは「B・C・G」であります。Bとは Bacille (ばい菌) というフランス語で、CとGとはフランス人二人の頭文字であります。CさんとGさんが発見したばい菌という意味で、そのお二人の名は Calmette 氏と Guerin 氏であります。このお二人が本当の牛型結核菌を植えついでいる中に、人間には無害で而も本当の結核菌に対して免疫体を作るばい菌を発見したのであります。従つて B・C・G は全く無害(但し注射したあとに潰瘍が出来ることがあるが)であつて、注射したあとでも、いくらお日様に当つても、それで熱が出来るとか故障の起きることはない筈であります。

従つてツベルクリン陽転にも二つある、一つは本当の結核菌の感染による自然陽転で、もう一つはうその結核菌 B・C・G による陽

転であります。自然陽転はお日様に当つてはいけないが、B・C・G なら構わない——こういうことを案外知つている方が少い。これははつきり飲み込んでおくことが大切であります。そして夏休みの過し方として、五月の身体検査で陽転といわれた者はどういう方法を願つたらよいか、ということをはつきりさせなければなりません。その第一として自然か、B・C・G を区別しなければならないのです。お日様の利用の仕方が丸でちがうからで、B・C・G 陽転であるのにお日様に当らないという様なつまらないことにならな

い様にしたいです。

ところが困つたことに、陽転と自然陽転との区別がなかなかつきにくく。したがつて、もし B・C・G 陽転なのに、お日様に当らぬ様にしたら、切角紫外線の強い夏の恩恵をやたら無駄にしてしまふわけで、勿体ない話であります。逆に、自然陽転なのにお日様に当る(例えれば海水浴にいく)様なことがあると、秋口を待たずして発病することが多いのであります。昨年も子供につい負けて海へつれていつたところが、八月終り頃非常に瘦せ、「ひるびる」する様になつた。子供にレントゲンを撮つてみると、大きな肺浸潤が出来ていたのでありました。

自然陽転か B・C・G 陽転かの区別がつかない場合にどうしたらよいか、という問題ですが、医者の立場からは「大事にとつて、この夏はあまり日に当らぬよう」と申上げるより他、現在の段階ではお答え出来ないのです。それよりも結核の研究者によつて、早くこの二つの鑑別方法が考案られてほし、それを望む気持が切であります。

(三)

日射病はどうして起るのでしようか。これは皆さん、もう既に御存じと思います。お日様の直射光線を頭に受けて、髄膜の症状殊に脳症状を起すものであります。日射病の特長は、熱線が脳に深達することでありますから、大切なのは、頭を保護することであります。ところが子供は帽子を非常に厭がります。蝶取り、水あそびなど、帽子はうるさいので、つい放り出して遊びに熱中している中に顔が赤くなつて来る、頭がいたいと言ひ出す、どつと吐いてしま

が亢すると、不安興奮の症状を示し、或いは意識を失つてしまいます。時には痙攣を発し、大人では精神的錯乱した者さえあります。どの位お日様に当るとこの様になるのか、それは慣れということでも非常に手伝っています。漁夫の子などは、帽子もかぶらず、炎天下の汀に裸で遊んでいますが、それは春頃から慣らしてあるからであります。ところが普段そうした生活をしていない者が、急に炎天下に立つとひどくやられます。そのよい例として、日帰りの海水浴があります。切角の海水浴でも、とを稼ごうと、一日お日様に当つていると、帰る頃にはすっかり伸びてしまうのであります。

ですから、私は日帰りの海水浴は絶対に反対いたします。大体海水浴の効果は、二週間以上たたないとあらわれて来ないと「ドイツの学者」より云われております。したがつて、日帰りは出来るだけを楽しめることが出来ない、そういう場合には、無駄の様であつても、出来るだけ早く海岸を切り上げて、お屋すぎ位の乗物で帰つてくるよう。これはよくよく御両親に考えていただきたいことであります。

夏の戸外あそびには帽子を必ずかぶるように教えること、そのためには、子供と一緒に帽子屋にいき、子供の気に入つた帽子でしかもうるさくないもの、子供は案外赤白の運動帽を好むものです。

又、日帰りの海水浴は慎重に考えての結果にいたしましよう。序でに申しますが、この日帰りの海水浴で脳炎を誘発した例もあります。

夏の高温に湿度が加わって、我が国ではいろいろなばい菌がはび

こり、おなかをこわしで死ぬ子供があえて来ます。その率はアメリカの数十倍に及んでおります。或いは赤痢、痽病で死ぬ子供がぐんとふえて来ます。今年も赤痢が流行しております、四月は昨年の二〇%も多いくらいでありますから、この夏はどんなに多くの人たちが、このつまらない病気のために死んで行くか、特に幼児が大半を占めていますから、何とかこれを喰い止めたいというのが我々の念願であります。しかしこれとても、暑氣を与えるお日様が悪いのではなく、むしろ湿氣の方が悪いのだといいたいのです。

更に悪いのは、この様な季節に、不潔な食品を与えたり、手洗いもさせずにお菓子をたべさせることをしている親の方に責任があるのです。不潔な食品としては先ず駄菓子屋。その中にはずい分いかがわしいものを売つている店もあつて、そこへ子供は二円、三円を大事そうに握つていて、その手へ駄菓子を買つてくるのです。しかも子供は出来るだけ長く遊べるお菓子を買いますから、ばい菌でよこれる機会はいくらもある、この上もなく危険な話であります。

殊に子供の手は、いろいろなところに触れます。きたないものでも平氣でいじります。その手でさんざんにじくつたお菓子をたべるということは、どういう結果になるか、想像がつくことと思います。これが日本の子供のおなかこわしで死ぬ数を増してしまつてゐるわけであります。しかしこれも強い暑さを与えるお日様が悪いのではなく、むしろ湿氣が悪いと云いたいのです。更に悪いのは、この様な季節に、不潔な食品を与えたり、手洗いもさせないで子供にお菓子をくれたりする親の方が悪いのです。買喰いをさせない、清潔な店のお菓子を与える、必ず手を洗い食卓につけて物を食べる、この心懶けが守れれば子供はおなかこわしから救われるでしょう。

(四)